

(別紙)

認知症対応型サービス事業開設者研修標準カリキュラム

【講義・演習6時間、現場体験8時間、レポート作成】

教科名	目的
(1)認知症高齢者の基本的理解	認知症という病気と症状について、下記の事項に関し、基本的な理解を図る。 <ul style="list-style-type: none">・「医学的理解」－医学面から本人の生活に及ぼす影響を示し、生活障害としての理解を深める。・「心理的理解」－高齢者への周囲の不適切な対応・不適切な環境が及ぼす心理面の影響の内容を理解する。・認知症という障害を抱える中で自立した生活を送ることの意味と、それを支援することの重要性を理解する。
(2)認知症高齢者ケアのあり方	「認知症高齢者の基本的理解」を基に、「権利擁護」や「リスクマネジメント」の基本的な知識を付与し、認知症高齢者が、自分の能力に応じて自立した生活を送るための支援を行うために必要な、基本的な考え方を理解する。
(3)家族の理解・高齢者との関係の理解	家族介護者のみではなく、他の家族も含めた家族の理解と、高齢者と家族の関係を通して、認知症介護から生じる家庭内の様々な問題や課題を理解し、家族への支援の重要性について理解する。
(4)地域密着型サービスの取組みについて	地域密着型サービスの指定基準（特に「地域との連携」「質の向上」）について理解する。 小規模多機能型居宅介護、認知症対応型通所介護、認知症対応型共同生活介護の各事業所からの実践報告を通じ、各事業のサービス提供のあり方について理解する。
現場体験	事業者や介護従事者の視点ではなく、利用者の立場から各事業所におけるケアを体験することにより、利用者にとって適切なサービス提供のあり方、サービスの質の確保等について理解する。
レポート作成	研修（現場体験含む）の受講を通じて修得した事項についてレポート（A4用紙5枚程度）を作成する。 レポートのテーマは以下のとおりとし、研修実施団体に提出する。 〔テーマ〕 <ul style="list-style-type: none">・認知症高齢者ケアについて理解したこと・今後の事業運営に関して取り組みたいこと など